

巻頭言 2

紀要の発展を願って

平成 26 年 4 月 1 日付で教育部長を拝命いたしました。前教育部長であり、現看護学科長の軸丸清子教授とともに看護学科のさらなる躍進のために努力してまいりたいと存じます。教育部長就任にあたりこれからの紀要の発展を願ひまして一言述べさせていただきます。

前学科長の飯田順三教授が、大変なご苦勞をされ、平成 24 年度より本学大学院看護学研究科修士課程が設置の運びとなり 1 期生を迎え入れることができました。それから 2 年が経ち、平成 26 年 3 月に初めての修了生を送り出すことができました。修了生はそれぞれのテーマで研究を遂行し、晴れて看護学修士号を手にし、巣立っていったことは大変喜ばしいことでございます。

ここで改めて私が感じますことは、せっかく研究を実施し、指導を受けてまとめあげた論文を「修士論文」としてだけ完結させることは大変もったいないことであるということです。つまり一人でも多くの方々に自分の研究成果を発表することは、研究の本来の目的である、「いつかは患者さんや対象となる方々に役立つ機会」を進んでつくることとなります。そのためにもっとも身近でありながら、学術雑誌としての指導を受けられる紀要はかけがえのない存在でもあります。ページ数の多い修士論文としてまとめあげた中から、限られたページ数でいかに重要な研究内容を再構成させるか、という課題も達成できます。

修了された院生の皆様におかれましては、やれやれやと終わったと思っておられる方、学会誌に投稿する勇気がない方などきつといらっしゃると思います。自分がこれから広く世間に発表する論文の記念すべき第一歩と位置づけ、まずは紀要に投稿されてはいかがでしょう。

さらには、すでに研究者、教育者としての道を歩みだしておられる看護学科教員の皆様におかれましては、ご自身の研究成果を身近に気負いなく発表する場としてご活用いただくのはいかがでしょうか。それらの大きな役割を担われている紀要編集委員長の濱田薫教授が、きめ細やか、かつ愛情のこもった査読で論文を育て上げてくださっています。この機会を逃すのは大変もったいないように思います。

ぜひ、それぞれの方々が自分を成長させる礎として、奈良県立医科大学医学部看護学科紀要に論文投稿していただき、紀要の益々の発展にお力添えをお願いしたいと存じます。

平成 26 年 4 月 1 日
教育部長 石澤美保子